



自転車トラブル防止法

日頃、京大生が利用する自転車。通学はもとより買い物や市街地の移動には欠かせない存在です。そんな自転車がある日突然動かなくなってしまうたら… 今回は自転車の機能を維持するための簡単なチェック法とアドバイスをお届けします。
(A-K)



家での

こづち

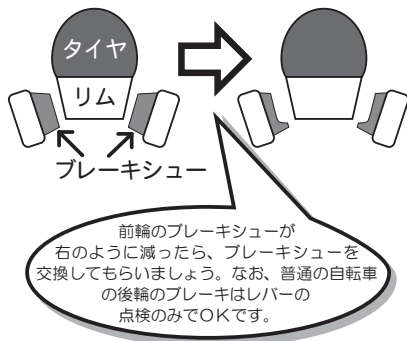
パンク

空気を多めに入れて
カンタンに防止

自転車の最多トラブルであるパンク。実は、釘やガラス片が刺さってパンクということは少なく、空気が少ないために起こるパンクが圧倒的に多いのです。空気が足りないと、段差に当たったときに衝撃を吸収できず、タイヤチューブやリム（タイヤのフレーム）を傷め、パンクの原因となります。パンク防止には、まずタイヤに空気を入れることが大事です。

では、空気はどれだけ入っていればいいのでしょうか？ 自転車のタイヤの空気圧は、車のタイヤより高い約3気圧が適正で、両手の親指でタイヤを強く押して少しへこむぐらいが目安です。

また、「1週間ぐらいしたら空気が抜けてしまう」という場合は、とりあえず虫ゴム（タイヤの空気を入れる部分の部品。300円ぐらい）を変えてみましょう。これで解決することもよくあります。



ブレーキ

意外と止まりにくい
自転車

自転車はすぐに止まれると思っている人が多いようですが、実は同じスピードで自動車と自転車の制動距離（ブレーキが効き始めてから止まるまでの距離）を比較すると、自転車の制動距離の方がはるかに長いのです。しかも、自転車のブレーキは使っているうちに、ブレーキシュー（ゴム）がすり減ったり、ワイヤーやナットの締め付けがゆるむため性能が落ちます。

普段のチェックとして、前輪のブレーキシューが減っていないか、または変な減り方をしていないか（左図）、ブレーキレバーを握ったときにハンドルとレバーの間隔があるか（右図）、ブレーキをかけたときにガクガクするような感じがしないか、といったことがあげられます。今すぐ自分で点検してみてください。命に関わるパーツなので、年1回は自転車屋さんで点検してもらいましょう。

チェーン

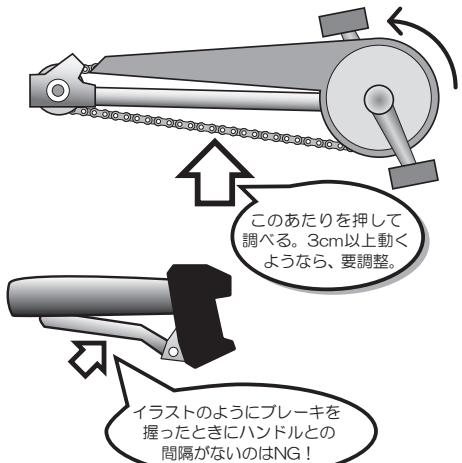
作業は難調整の時期を見極めて

チェーンのトラブルとしては錆びと伸びが主にあげられます。

錆びている場合は、ホームセンターなどで販売している機械用の潤滑油を大量につけることで錆びを落とすことができます。ただし、つけすぎたオイルは必ずボロ布で拭き取っておきましょう。

チェーンが伸びている場合は、作業が複雑なので自転車屋さんに調整を依頼します。下の絵のように、ペダルを回しながらチェーンを動かしてみて、一番たるむところが3cm以上になったら要調整です。ペダルを強く踏み込むと空回りするという場合も同じです。

チェーンが外から見えないようにカバーがかかっている場合は直接チェーンに触るのは難しいのですが、チェーンが伸びるとカバーに当たって音がするので、このときも要調整です。



はみだし
すてーじ

この前かてきよで
⇒ええ！ 本当ですか？

(工・3 あそっか)
(で、何があったんですか？ 編)